

都留文科大学

同窓会報

第34号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局

責任者 加藤一雄

山梨県都留市田原3-8-1

☎0554-43-4341

大学創立60周年記念

同窓會

都留文科大学

「大学の発展」と「会員相互の親睦」のさらなる発展を

都留文科大学同窓会長

原 喜 雄



私は、昨年4月に開催された全国理事会において、第14代会長として、推薦・承認をいただきました。伝統ある都留文科大学のさらなる発展と活性化に向けて邁進していく所存です。皆様方の御指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

都留文科大学は、本年度大学創立60周年を迎えました。昭和28年（1953年）4月に山梨県立臨時教員養成所として設立され、昭和30年（1955年）4月都留市立短期大学に改編し、さらに、昭和35年4月に都留文科大学へと移行しました。短期大学から数えて、平成27年度に創立60周年という記念すべき節目の年を迎えました。

この節目にあたり、「大学の発展に寄与する」同窓会として、国際交流会館（仮称）建設への寄付1000万円を贈呈いたしました。本学のさらなる国際化の進展を図るため、グローバルな人材を育成する教育寮としての機能を有する施設を建設し、新しい時代の新しい教育に備えることは、諸先輩が築き上げた業績を堅実に継続し、さらに発展させることであります。この事業が成し遂げられることを共に喜びたいと思います。

また、10月10日には、創立60周年記念式典並びに記念講演会が盛大に行われました。式辞、挨拶、祝辞に続き、「60年の歩み」の上映、「大学新ロゴの披露」「愛唱歌の披露」、それに続いて文部科学省前事務次官 山中伸一氏による講演が行われました。これまでの本学の歴史を鑑み、諸先輩の輝かしい業績をたたえ、本学のさらなる発展と、新しい時代をたくましく生きる「文大生」を育成する気概を強く

感じました。60周年という節目にあたり、この年を改革元年と位置づけ、各種記念事業を通して、大学のさらなる発展を願ってやみません。

同窓会のもう一つの目的として「会員相互の親睦」があります。現在、私が勤めている山梨市立加納岩小学校においても教職員23人中6人が同窓生であります。都留での大学生活、寮生活の思い出、校舎等について、語り合い、親睦を深めることにより同窓生である絆がさらに深まっております。

同窓生が職場で語り合うことができる大きな原動力は、会員相互をつなぐ支部の設立であります。今年度、2月20日に和歌山県支部が新たに設立されました。設立に至るまで、発起人を中心に事前打ち合わせの開催、支部規約の作成、支部組織の編成、文書発送、そして設立総会への準備等、お忙しい中、ご苦勞いただきました関係各位の皆様へ感謝申し上げます。和歌山県支部の設立により全国で39支部が設立されたこととなります。全国47都道府県の全てに支部が設立されるまで、今一步のところとなりました。同窓会では、支部未設立県の支部設立を支援するための専任理事を設けています。支部設立の活動ができる方は、ぜひ同窓会本部へご連絡ください。同窓会本部が支部設立と一緒に取り組みます。

さて、都留文科大学は、本年大学創立60周年を迎えましたが、その一方で大学の置かれている状況を見ますと「氷河期から淘汰の時代」といわれる厳しい状況を迎えています。そのような状況のなか、我が都留文科大学同窓会員は全国47都道府県に在住し、地域や各界で活躍し、全国的なつながりを持っております。その強みを生かし、同窓会の目的である「大学の発展への寄与」そして「会員相互の親睦」のさらなる実現に向けて、同窓会の知恵と力を結集した取組を行って参りたいと考えています。

皆様方の御理解とご協力をお願いし、挨拶とさせていただきます。

都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科	役職名	氏名	卒科
名誉会長	福田誠治	学長	茨城支部長	宮内健治	S52国	広島支部長	小谷桂司	S44初	理事	一瀬英治	S46国
会長	原 喜雄	S53初	群馬支部長	齋木雄造	S52国	鳥取支部長	山本英明	S49初		若林四郎	S31商
副会長	桐井幸雄	S32初	埼玉支部長	西 敬	S56初	島根支部長	小藤 貢	S44初		小田切道之	S43初
	杉中康平	S59初	千葉支部長	川名和則	S51英	岡山支部長	原田直樹	S45国		作地 眞	S46国
	加藤一雄	S53初	東京支部長	松本多加志	S44初	愛媛支部長	谷川忠孝	S42初		奥脇隆樹	S45初
	柏木精一	S58初	横浜支部代行	松下登志男	S41国	徳島支部長	小倉健司	S54英		赤松金次郎	S35商
庶務会計	小幡哲明	S56国	山梨支部長	水上昭夫	S39国	高知支部長	前田志郎	S48初		鈴木 茂	S53初
	河端雄一	S63初	静岡支部長	清水 猶	S42国	長崎支部長	平山繁壽	S44初		石田一元	S56初
	藤江耕正	肄 齋 齋	長野支部長	堀内敏明	S54初	熊本支部長	永田好文	S47初		顧問	奥秋順作
事務局長	鈴木 守	S55初	岐阜支部長	山本吉朗	S40英	宮崎支部長	取附義弘	S51初			志村武男
事務局次長	浜元亮吉	S39国	新潟支部長	池原栄一	S50初	鹿児島支部長	本田武久	S43国	後藤 敬		S33商
	外川正純	S46英	富山支部長	高木要志男	S52初	沖縄支部長	比嘉正夫	S53英	佐藤唯一		S32初
	渡辺正司	S63初	石川支部長	西田良治	S49国	北海道	山本洋嗣	S56国	佐藤英雄		S38国
監 事	原田裕太	H 7初	福井支部長	荒木基裕	S53初	東北Jリーグ	鎌田 清	S47初	輿石 東		S32初
	淡野香百合	S39初	愛知支部長	平手孝幸	S54初	兵庫県	赤穂栄一	S40英	山縣永良		S39国
理事(支部長)	相川洋子	S52英	三重支部長	松本正美	S48英	山梨県	松土仁郎	S46初	勝俣武男		S41初
	北海道支部長	加藤佳栄	S56英	奈良支部長	岡田善英	S45初	石井正巳	S51初	永田清一		S46国
	岩手支部長	小山田厚	S55国	大阪支部長	山本誠一	S54英	丸山一彦	S53初	小林孝次		S46英
	山形支部長	鈴木雄二	S55国	兵庫支部長	渋谷訓生	S41英	岩間好久	S55初	千野文雄	S48英	
	宮城支部長	菅原義之	S57初	京都支部長	栢谷雄三	S44初	笹本忠彦	S62英	亀田孝夫	S51英	
	福島支部長	大竹豊紀	S39初	滋賀支部長	松嶋孝雄	S46初	一之宮英文	S51初			

学修から学習へ(3)

都留文科大学学長

福田 誠治



大学生は自ら進んで勉強し研究して学問を身に付けるので「学習」ではなく「学修」という言葉を使うと、中央教育審議会は決めたそうだ。「受け身でなく」「自ら進んで勉強し研究する」ためだという。ところが、中教審の主眼は、「教育の質向上は学習時間の増加から」という点にあるようだ。学修支援策として、カリキュラムの体系化、つまり全授業を国道のようにナンバリングして学生が学ぶ筋道を効率よく絞ることと、予習・復習の時間数と参考書を明確にシラバスに記載して授業選択を効率的に行うこと、一方的に聞く授業でなく討論・発表重視型授業、フィールドワーク、グループ・ディスカッションやワークショップなどが求められている。

今大学では、休講するな、休講したら補講をしてシラバス通りの授業をしろと言われている。2時間の授業には4時間の授業外学習をすることとされる。実際にはほとんどの大学は90分授業なのだが、時間割は60分授業にして2時間に組み合わせていく単位計算をとる国立大学も出現している。1日3つの授業が限界で、それで授業時間は6時間、授業外時間は12時間となり、残りは6時間しかない。授業名が違えば教育内容も違い、授業外学習もそれぞれ足し算となるという

論理だ。同じ時間に複数の科目の準備をするものではない、レポートの流用などありえないというのだ。

小・中・高等学校ではテストで教育管理が行われているが、大学ではこのように時間で管理されようとしている。学生が怠けないように体を動かすアクティブ・ラーニングが求められているということだ。これでは決まり切ったことしか考えなくなり、そのうち大学生が学ぶ知識内容も法学、経済学といった科目ごとに全国画一になるだろう。英語のTOEFL、TOEICなどは、世界画一の教育になってしまう。

ところが、本来のアクティブ・ラーニングは、自ら答えを探して、探究し、自分で考えて判断するということであって、他人が決めた結論を時間をかけて覚えるということではない。なぜなら、アクティブな学びの先にクリエイティビティ（創造）が期待されているからだ。あんパン、ジャムパン、カレーライス、牛丼、ハイブリッド車といった、学びの先に新たな創造が求められるからだ。また、学んだ知識や技能を予想外の新しい条件で、あるいはより複雑な条件の下で使う力（コンピテンス）を育成する方向に、先進諸国の教育が変化してきている。日本の教育界の中核は、本質を変えず形だけを強化しようとしているだろうか。

中教審では、「学習」は学問を習うことで、習うことが主になっており、自ら進んで学ぶことではないとしている。そのため、義務教育では学習指導要領で学習内容が決められているのだとしている。学習（learning）は主体者が探究する活動であり、教師はそれを支援するという考え方は、日本に根付かないのだろうか。

平成27年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	県名	会員数	No	県名	会員数	No	県名	会員数	No	県名	会員数
1	北海道	599	13	東京都	1,294	25	滋賀県	109	37	香川県	145
2	青森県	232	14	神奈川県	1,250	26	京都府	244	38	愛媛県	286
3	岩手県	534	15	新潟県	644	27	大阪府	474	39	高知県	78
4	宮城県	574	16	富山県	603	28	兵庫県	833	40	福岡県	235
5	秋田県	240	17	石川県	594	29	奈良県	92	41	佐賀県	82
6	山形県	328	18	福井県	521	30	和歌山県	191	42	長崎県	199
7	福島県	744	19	山梨県	3,672	31	鳥取県	161	43	熊本県	189
8	茨城県	444	20	長野県	1,109	32	島根県	161	44	大分県	109
9	栃木県	477	21	岐阜県	525	33	岡山県	388	45	宮崎県	155
10	群馬県	334	22	静岡県	1,433	34	広島県	480	46	鹿児島県	340
11	埼玉県	548	23	愛知県	1,190	35	山口県	170	47	沖縄県	209
12	千葉県	580	24	三重県	385	36	徳島県	399	48	外国・不明等	7,572
										合計	32,155

■ 支部設立済都道府県

(注) 和歌山県支部が平成28年2月20日に設立されました

平成27年5月19日現在

退官にあたり

《さらなる都留文科大学の発展を》

都留文科大学前理事長

大谷 哲夫



万やむを得ない事情により私は、本年の1月末をもって退官することになりましたことを、まずもってご報告させていただきます。そして同窓生の皆様の、在任中のご支援ご協力に衷心より御礼申しあげる次第です。

さて、去年は、同窓会の皆様の絶大なるご支援を賜り、都留文科大学創立60周年の記念式典を盛大に祝うことができました。これもひとえに同窓生の皆様の母校愛あればこそと、再度心より御礼申し上げます。

私は、3年前の理事長就任にあたり、私に課せられた使命は、「都留文科大学創立60周年を期してどう展開し発展していくか」、その基礎作りにあると痛感いたしました。したがって私は、昨年、創立60周年を迎えた時に、これまでの本学の歴史に鑑み、諸先輩方の輝かしい業績を称えとともに、グローバル化などという言葉を超えて進化する世界情勢の中で、この60周年を、都留文科大学発展のための改革元年と位置づけ、本学をさらに飛躍させなければならないと考え、大意次のように述べさせていただきました。

都留市は、本学の草創の当初、また近年の高度経済成長期においても、自らの主たる役割を「教育」に見定めて、市と大学の教職員一丸となって、次世代の教

育者の育成に力を注ぎ、その結果、本学は全国から優秀な学生を集め、教育者を育てる場を確立し、卒業生は教育現場ばかりではなく、社会のさまざまな場で活躍しています。今では、本学が都留市の大きな財産であり、地方都市に存在する大学の雄として希有な存在であることは周知の事実となっています。が、現代日本の少子化の問題は極めて深刻で、大学淘汰の現象が顕著になってきている現実があります。いわゆる18年問題が現実にも迫っている現状に鑑みると、本学といえども、時代を先取りした対策を怠るならばどのような事態を招くか予想はできません。今後、都留文科大学は、「教育研究」では、時代に即応した新カリキュラムの実施に伴う教育環境の整備はもちろん、学部学科の再編、そして進展中の「国際バカロレア」の充実、各種センターの設置とそれらを集約する建物の構築。「学生支援」では、学生への奨学金の充実はもちろん、国際交流をより実践的にするための独自の奨学金の導入とその展開。「地域貢献」では、都留市のCCRC構想と緊密な連携をして「大学COC＝地（知）を生かす拠点＝推進機構」を充実させ、大学と市が融合したところに発生する知的財産を有効的に活用し総合的な学園都市の構築を目指さなければなりません。

本学は、本年61年目を期して、全国の文化と教育に貢献するばかりではなく、地方大学の雄として、世界へ情報発信する、より以上の存在感のある大学へと展開しなければなりません。同窓生の皆様の絶大なるご支援ご協力をお願いいたします。私は理事長を退任するにあたり、今後の都留文科大学の発展を心より祈念いたします。

都留と陸上競技

都留文科大学退官教授
初等教育学科

麻場 一徳



あっという間に過ぎた29年間でした。赴任当初、学生と接して、真面目で素直な印象を受けると同時に、不本意なまま在学している者が多く感じました。ドラマの台詞ではありませんが、「この大学には誇りが必要だ」と若輩ながら感じたものでした。

私にできることといえば、やはり陸上競技です。やるならば、それなりに競技を目指し、大学の名を背負えるようなチームを作ろうと、当時の陸上競技部員たちとスタートさせたことを思い出します。同好会的集団からいきなり競技志向へと転換したため、当時は部員数がどんどん減っていきました。

そのうちに、芸術体育系の推薦入試制度が出来、やまびこ競技場が出来、さらにはAO（体育系）入試が出来るなど、環境が整うとともに、多くの方々にご支援をいただき、

徐々にレベルの高い競技会で成果をあげられるようになってきました。特に女子部員の進境には目覚ましいものがあり、日本選手権、日本インカレなどの全国大会で活躍する者も出てくるようになりました。全国大会の入賞者は、延べにすると50名以上になるかと思います。

そして日本代表選手として、これまでに4名が国際大会に出場しております。中でも2012年のロンドンオリンピックに佐野夢加が出場できたことは、私にとっては奇跡に近いことです。失礼な言い方かも知れませんが、本学では二度と無いことだと思っています。それだけに、佐野は本学にとって宝であり、大切にしていだけたら有り難く思います。

学生に指導し続けてきたことは、「良いチームづくりとそれに貢献する取り組み」です。おかげさまで、「リレーだけは負けない」という伝統がチームに根付くことができました。そして、(女子の)オレンジ色のユニフォームは、日本の陸上競技界において市民権を得ることができました。

今、私の教え子がこのチームを引き継ごうと取り組んでくれています。私も、少なくとも在学中の学生が卒業するまではチームと関わらせていただき、後進にバトンタッチできたらと思っています。

29年間、本当にお世話になりました。

都留文科大学を去るに当って

都留文科大学退官教授
社会学科

横田 力



「光陰矢の如し」と言うが、1997年4月の着任以来、20年弱の期間が一日の如くに過ぎていくのを一入の思いで感じている昨今である。

思えばこの20年間、大学はすでにこの頃には91年の大学設置基準の大綱化を受けて教養教育を中心にその流動化が実行に移され、社会のニーズに応え、選ばれる大学になることを要件に学長や学部長への権限の集中が進行する中で独立行政法人化が強行されていく時期と符合していた。

そのような中、本来基本財源に恵まれない日本の大学が、専門家集団であるコール（corps、自主的自治団体）として教授会の自治を中心に、大学の自治の内実としての学問の自律性と教育の自主性を守り抜くためには、2つの視点からの取り組みが必要とされていたと言えよう。

1つは、論理的に捉えれば、成果を志向する目的合理性や、

統治を内容とする戦略的合理性（両者をあわせてシステム合理性という）とは次元を異にする「合意」と「了解」を内容とするコミュニケーション的合理性に基づく公共圏の確立を目指すということである。ここでは各学会の評価基準が学術会議等の動向を介して大学構成員各人の行為規範となることが期待されていたと言えよう。

いま1つは、より具体的な大学の組織原理に関わることである。例えば本年度実施の改正学校教育法93条②項第3号にある教授会が意見を述べる時「重要な事項」とは学位の授与を含む学生の身分に関する審査以外では「教育課程の編成」「教員の教員研究業績の審査」が考えられるが、特に後者に関し、審査対象とすべき教員の枠（定員等）を審議する機構と審査そのものを担当する機構は判然と分けることが必要となってくる。この配置と審査のレベルを混淆すれば先に述べたシステム合理性の論理がコミュニケーション的合理性からなる営為を掘り崩し、大学の自治は学問の自律と教育の自主性を欠いた形骸としての利益団体のガバナンス組織へと変質していくことは明らかである。

今、戦後70年の未曾有の大転換の時代に当ってわれわれ大学人はあくまで知性主義の旗を堅持してこのような流れに抗していかねばならない。文大の今後を担う若者たちのためにも。

都留文科大学で「現場人」を育成

都留文科大学退官教授
社会学科

渡辺 豊博



2008年4月1日、都留文科大学に赴任して8年の歳月が経過しました。戸惑いもありましたが、無事に定年退職を迎えられたことに感謝しております。

私は、本学に就職する前、静岡県庁に35年間勤務しておりました。農業基盤整備の計画実施やNPOへの支援、静岡空港建設に関わる用地交渉、静岡県の総合計画の策定などを現場最前線で担当してきました。最も苦勞・腐心したのは、多種多様な考え方を持つ県民や企業、専門家、各行政間の「合意形成」でした。現実社会では、とかく対立しがちな利害者同士が相手の立場と役割を理解・尊重し合う、パートナーシップの構築には、高度な戦略的アプローチや強い人間力、臨機応変な行動力が求められました。

まさに、本学の8年間に於いて、私が学生に伝えてきたこと

は、「現場には社会の真理がある」「現場には人としての生き方を学ぶ多様な知恵がある」でした。確かに、大学は、人としての専門的な知識や高度な教養を学ぶ「学問の府」ではありますが、複雑多岐なしがらみや利害が交錯する現実社会を、自分らしく生き抜いていくためには、現場での的確な判断力と人間力、経験知・専門知に基づいた行動力が求められます。

私の授業は、私が関係している「グラウンドワーク三島」が実施する、「源兵衛川での草刈りや堆積土の排除、松毛川での河畔林の竹林伐採や植林活動、三島ソバの種まきなどの農業体験、新たなまちづくり計画に関わる市民とのワークショップへの参加、地域住民との交流」などの現場体験を重視してきました。

学生はこれらの体験を通して、現場での効率的な段取りや住民との人間的な付き合い方、NPOの役割などを学びます。また、自分のふるさとへの「愛郷心」も芽生え、地元での就職を強く考えるきっかけづくりになっています。

その他にも、「就職力・就業力アップ講座」の開講による公務員の人材育成や英国・韓国への海外研修による120人以上の海外体験の企画、都留市内湧水地でのバイクの里づくりなど、思い出は尽きません。今後、学生が地元を先導していく人材に成長してくれることを期待しています。お世話になりました。

事務職員として・教員として

都留文科大学退官教授
情報センター

杉本 光司



1997年4月に非常に稀な経歴の中で講師として着任しました。私は、1975年10月に都留市役所に採用され、企画課情報管理係配属となり11年6カ月を経た、1987年4月に大学事務局に異動となりました。そこでの主業務は、それまで外部委託処理していた大学入試業務の学内処理システムの構築でした。複雑な入学試験業務の分析や大学入試センターとの打ち合わせ等を行い、全工程のシステム図を作成後、全てのプログラムを作成し、本番に臨んだ。あの緊張感は今でも忘れることが出来ない思い出です。その後、学内でのパソコンを利用した新たな情報教育教室の設置計画もあり、1993年7月には全国の国公私立大学の文系282学部「文系学部における情報教育とその周辺設備に関する調査」を目的とするアンケートを実施しました。その調査結果は、1994年2月の本学研究紀要40集に研究論文として発

表するとともに、調査に協力頂いた179学部の担当部署にもお送りさせていただきました。また、学内の情報教育部会を通して、情報教育教室の新規整備事業や新しい情報教育カリキュラム作成に対しての資料として提案させていただきました。この1編の論文執筆発表が機となり、他大学の先生方から研究会での発表や学会加入のお誘いを受けることにより日常業務以外の時間における研究活動が始まりました。

そして、1994年4月には情報センターが設置されることになり、文系大学としては早い時期に、現在の2402教室のネットワーク化、学内LAN構築、そしてインターネット接続を整備することにより、現在のキャンパスネットワーク構築へとつながる基盤のスタートとなりました。そんな環境の中で、本学での情報担当専任教員採用の募集があり、先輩の先生方に薦められるまま応募し、運よく、予想していなかった大学教員としての人生が始まりました。

先進技術が目まぐるしく変化する分野の中においても、常に若い世代の友人に支えられ今日まで走り続けることができたと考えています。そして、私の人生においてたくさんの学びと成長の機会を与えていただいた都留文科大学に対して、心より感謝するとともに、大いなる発展を祈っております。

活躍する同窓生

米国でガンの研究に従事して

ノースウェスタン大学医学系大学院及び
付属ガン総合研究センター 助教授

堀内 大

(H8年度英文学科卒業)



日本を後にしてから早いもので15年近くになります。私は昨年春、米国イリノイ州シカゴ市にあるノースウェスタン大学医学系大学院及び付属ガン総合研究センター (Northwestern University Feinberg School of Medicine, and Robert H. Lurie Comprehensive Cancer Center) で自身の研究室を立ち上げ、大学教員として基礎及び臨床的なガンの研究に従事しています。私が都留文科大学文学部英文学科を1997年春に卒業してからたどった経緯は恐らく稀であると思われるので、この場をお借りして皆さんにお伝えしたいと思います。私が個人的に皆さんにモットーとしていただきたいことは「自分の今の能力で何が出来るか」ではなく、「自分は一体何をしたいのか」ということです。年齢は大して問題ではありません。

英文学科に入学した際、何か面白いことをしてみたいと潜在的に思った瞬間があったことを憶えています。それは1年生と2年生の時、将来の恩師となる今井隆先生が担当していらした授業をとった時のことでした。当時(今でも?)今井先生は英語で授業をされ、私は授業の内容よりは先生の授業のスタイルにいい意味で刺激されました。将来、英語を使って、まだ見ぬ異文化の中で生活してみたいという欲望が生まれてきたのがこの頃です。

今井先生のゼミは非常にタフで、半泣き状態でゼミの準備をしていたのを覚えています。と同時に、この2年間で私の将来の方向性を築く基礎となったと言っても過言ではありません。理論言語学の教科書や最先端の論文を読みつつ、一方で一体赤ちゃんはどうやって第一言語を獲得するのだろう、といった認知、生物学的な問題を理論言語学の枠以外でも先生とゼミ生はよく語り明かしました。こういった極めて学際的な経験が、大学院へ進学して、将来、研究職につきたいという願望につながりました。私は、自身の中で興味が徐々に、言語研究よりもっと生物学的な方向に変化していることに気づいていました。幸運なことに私は神戸大学理学部生物学科へ3年次編入ができ、2000年3月には卒業しました。

大学院教育を受けるため、私は2000年夏に米国インディアナ大学ブルーミントン校 (Indiana University, Bloomington) 大学院へ入学し、2007年夏に分子遺伝学及び細胞生物学の分野で博士号を取得しました。大学院では、多くの授業のほか研究費を獲得するための訓練や博士候補生になるための資格試験の準備、学部生の授業を受け持つ義務などもあり、実際の博士論文研究以外にも沢山こなさなければなり

ません。

私は基礎生物科学分野で学位を取得しましたが、もっと臨床分野への応用性のあるガン研究を選び、米国の中でもトップレベルにあるカリフォルニア大学サンフランシスコ校 (University of California, San Francisco/UCSF) 医学系研究大学院へ移りました。UCSFには世界中からトップクラスの博士研究員が集まり最先端の生命科学分野での研究が行われ、4人のノーベル生理学・医学賞学者も現役で活躍しています。私が最終的にガン研究を自分の職業にしようと思ったのは、学術的な知識好奇心を探求するだけでなく、直接的に重病に苦しむ患者さんたちの生活を改善するのに科学的に貢献したいという考えからでした。UCSFで博士研究員として納得のいく研究業績を蓄積することができ、その結果に基づいて私はノースウェスタン大学で研究職をいただき、Horiuchi Labを開くことができました。ノースウェスタン大学は多くの研究領域が全米だけではなく世界的にも高く評価され、非常に学際的です。

都留文科大学を1997年に卒業して以来、私は常に「何をしたいんだ?」という非常に単純な質問を自分自身に真摯な態度で問い続けてきました。この「癖」が初めて表面化したのは、今井先生の講義をとっていた時のことで、本当に科学者になりたいと決意したのは私が今井ゼミに在籍していた時のことです。余談ですが、私が生涯Appleコンピューター使用者となったのも今井ゼミ在籍の時です。このような理由で、今日に至る経路はすべて都留文科大学にてスタートしたといっても過言ではなく、今井先生と他のゼミ生、そしてお世話になった他の先生方や友人たちには常に感謝の気持ちでいっぱいです。

私が若い大学学部生や大学院生によく言う言葉があります。「たとえ多少困難に見えても、本当に心から達成したければ、そしてその目標に向かって日々切磋琢磨する決意があるのであれば、きっとゴールに到達できる。」特に若い学生さんたちには、何を達成したいのかを純粋な気持ちで模索することが大切です。締めくくりとして、私のUCSF時代の直属の指導教授の一人であるマイケルビショップ教授 (J. Michael Bishop, 1989年度ノーベル生理学・医学賞受賞 Nobel Prize in Physiology or Medicine 1989) から私がシカゴに移る際に受けた言葉を引用したいと思います。「単にトレンドを追うのではなく、何か人と違った事をしてみようという、不確実性さえも享受してやろうという真摯な遊び心こそが次の大発見につながるかもしれない。」



活躍する同窓生

都留文科大学に対する「提言」

株式会社シンコー警備保障
代表取締役社長

竹内 昭

(S45年度英文学科卒業)



民間会社に就職した一人としてふがない大学に対していくつかの提言をしたい。

1. 認知度を上げるための提言

大学の知名度、所在地等大学が社会に対して発信する度合いが非常に少ない。もっと積極的に行うべきだ。

2. 就職率を上げるための提言

就職テクニックを学生に教える前に一般企業に大学名や大学の学科や所在地を知らしめる事が大事だ。

そのためにはパソナと提携するよりは日経新聞や日経系列会社と提携して全国的な認知度アップのキャンペーンを展開すべきだ。お金もかかるだろうがそういう活動をしないう限り経営者や人事担当者には知らしめることは不可能だ。

3. 大学の魅力度を上げるための提言

現在の学科だけで学生を増やすことは無理だと思う。学生の立場で考えるとあまりにも学科に魅力がなさすぎる。付加価値や話題性にも欠ける。

もっと魅力的な学科を1つないし2つ設置すべきだ。

文学部に類する学科としては芸術が浮かぶ。古典芸術、現代芸術の分野が考えられる。

古典芸術としては歌舞伎、雅楽、能、狂言、落語等

現代芸術としては舞台美術、装飾、陶芸、朗読、声優、芸能全般が上げられる。

このような学科を新設すれば世間から注目され応募者も増えると思う。

4. 全国の高校生を対象にした大学の冠が付いたイベントの実施

大学主催、あるいは後援の形態で全国高校生の「書道展」、「絵画展」、「彫刻展」、「音楽祭」、「チアガール競技会」、「各種踊りの発表会」、「スポーツ大会」等のイベントの企画・実施。

これらを実施することで高校生や付き添ってくる保護

者に大学の名前や場所を知らしめることになり、時間の経過とともに知名度も向上する。大学周辺に宿泊施設も必要。

5. ホームページの改訂

毎日日課のごとくホームページを見ているが非常に面白くない。載せてある情報も「最新情報」も「お知らせ」もほとんど同じ情報で2つの項目が必要であるか疑問だ。載せてある様々な情報も興味がわからない。それよりも大学の先生が出版した本の紹介とか論文の紹介=論文の全文を載せるということではなく、例えば「芭蕉について」というような題目だけでもいいと思う。とにかく大学に関する情報を毎日出すべきだ。大学の先生の紹介とか、退職された先生のコメント（『同窓会報』に載っているもの）とか活躍する卒業生の情報等もっと面白い情報を出すよう改訂すべきだ。

とにかく大学関係者はこの60年知名度を上げるための施策や受験者（応募者）を増やす施策をほとんどとってこなかったことを真摯に反省すべきだ。そして次の50年を見据えて大学の進むべき道を模索すべきだ。いい授業を続ければ応募者は集まるなどと他力本願で物事を考えるべきではない。積極的に大学から情報を発信しない限り良い学生は集まらないう肝に銘じるべきだ。

例えば英文科は海外留学する学生が年間何人いるとか、TOEICの600点は英文科の学生の何割、700点は何割というように、学生の一人当たり1か月に読む本の冊数とか卒業するまでに5つの論文を提出することが義務付けられているとか勉強に対しても非常に厳しい点を強調するとかいろいろな内容が考えられる。そういうことを少しずつ発信することで大学に対するイメージも大きく変わると思う。最近都内の私立大学に行く機会があり、都留文科大学と比較してみたが、施設は負けるが、平均的な学力は決して負けないと感じた。

活躍する同窓生

3つの顔

～教員・住職・地域の一人～

明星大学教育学部講師
高野山真言宗 月見山福寿院第三十七世
NPO法人篠原の里 理事長

岩木 晃範

(S42年度初等教育学科卒業)



私は現在、「教育」「住職」「地域活動」3つの分野で活動しています。

1. 次代を担う教員の卵・教員に願いを託し！

教育は大学卒業後、東京都の小学校教員としてスタートして以来今日までずっと関わってきました。担任20年、教頭3年、校長12年、教育委員会の指導室長3年が現職時代です。その後、明星大学教育学部で講師・准教授として10年務めています。

10数年前の同窓会の東京支部長時代、大学と連携し「同窓生による教員採用試験対策の面接講座」を初めて開催しました。一人でも多くの学生の「夢の実現」に同窓会が応援出来ればとの趣旨でした。それが現在にまで至り、この講座が現役生と同窓生を結びきっかけにもなったことを嬉しく思っています。

現在は、明星大学教育学部で道徳教育や教職科目の授業を行いつつ、教員を目指す学生の論文や面接指導を行っています。学生の成長する姿に接すると担当当時の「教員魂」が揺り動かされ、授業準備やレポート添削に力が入ります。有り難いことです。

大学以外では小学校校内研究の年間講師、地域運営学校運営委員、教育委員会の学校評価委員等を担っています。その関係で定期的に学校を訪問し授業参観や協議会に参加しています。昨年は初任者研修の一環として、小学生と授業する機会にも恵まれました。児童の感性の豊かさに触れつつ、初任者に授業づくりのヒントを与えることが出来、有意義な時間を過ごすことができました。

先輩や同僚から教えられたことを若い人に伝えたいと念じて取り組んでいます。



2. 檀信徒が集う寺を目指し！

私は開山700年の神奈川県の小さな寺に生まれ育ちました。歴代住職は教員を兼務しており、私も同じ道を歩み、住職歴11年です。

私が心がけていることは、檀信徒が気軽に集い信仰心を高め、互いの親睦も深める寺づくりです。過疎化や少子高齢化が進み、人が孤立しがちな今こそ寺が心の故郷の役割を担いたいと考えたからです。

気軽に足を運んでもらうため「おもてなしの心」を大切にしています。じっくり話を聴く、来訪者にゆかりの故人・知人の話をする、清掃を行き届かせ清々しい場作りをする等です。時間や手間がかかり、家族の協力も必要であり、楽ではないですが、出来る限り頑張るつもりです。

同時に、檀信徒が集う機会を設けています。「新春護摩供及び新年会、阿字観、四季の寺参り、花祭り、寺の定期総会、〇〇参拝研修、戦没者慰霊法要（節目の年）、除夜の鐘」等を定期的に開催しています。信仰心や親睦は「体験すること」でより確かなものとなると考えているからです。



3. 地域に活力を！～NPO活動～

私の地域は約15年前に小学校の統廃合を町から提案されました。学校の統廃合は地域の大問題です。何回も話し合いを重ね、率先して受け入れることにしました。その代わり、地域が校舎を無償で借り受け、町・県・国から補助金を得て校舎を宿泊の出来る施設にリニューアルしました。そして、ここを拠点とした公設民営のNPO法人を立ち上げました。

主な事業は校舎で宿泊・研修する「都市農村交流」、保育園の「子育て」、季節に応じた「各種イベント」等です。東日本大震災以降は春と夏に福島の親子を招待して「保養体験」を行っています。

私はNPO法人の責任者として、法人の関係者がそれぞれの持ち味を発揮し楽しんで活動することを目指しています。農業、炭焼き、野鳥観察、料理、モノづくり等です。幸い多くの方が持ち味を発揮し和気あいあいと活動しています。また法人として、赤字も出さず運営出来ていることも感謝です。



篠原の里設立10周年記念旅行

3つの顔をもつと忙しいですが、多くの方の支えがあるからこそ出来、有り難いと思っています。

念願の帯広の地で、母校に思いをはせるひと時

北海道支部長 加藤 佳 栄

支部の念願だった札幌以外での開催が叶い、8月9日(日)帯広で総会・懇親会が開かれました。会場の十勝ガーデンズホテルには、道内各地から総勢31名が集い、にぎやかな中で会が進みました。また、今回は同窓会本部から桐井幸雄副会長(昭和32年初等教育)にわざわざお運びいただき、会に花を添えていただきました。

例年総会後に行われる講演会では、今回は「児童詩誌『サイロ』・創刊56年の歩み」と題し、杉森繁樹様(昭和43年度初等教育)よりお話をいただきました。「サイロ」誕生の経緯、その目指すところ、長年にわたる継続の理由等、特に発刊以降56年を迎える今日においても毎年200~300編の投稿があるというお話には、一同驚きの声を挙げた次第です。現在「サイロ」は誰もが知る存在となったが、児童生徒数や詩作に取り組む時間の減少などの環境の中、今後どのように投稿数を確保し、さらに詩誌自体を活用してもらうかが課題となるというお話でした。

その後の懇親会では、桐井様に大学創立60周年記念のDVDをもとに現在の大学の様子をお話しいただく中、盃を介しながら各々の在学時の思い出や同窓生の近況等に大いに花が咲き、会が深まったことは言うまでもありません。

結びに校歌「花のかげ」を全員で声高らかに歌い、「桂友会」の合言葉のもとに次年の再会を期し、記念すべき本年度の帯広での会を閉じました。

会の開催にあたりましては、中村厚喜夫(昭和53年初等教育)副支部長をはじめ、帯広の同窓生の皆様方に本当にご尽力をいただきました。本欄をお借りして重ねて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

平成27年度役員

Table with 4 columns: Position, Name, Birth Year, Education Level. Includes roles like 支部長, 副支部長, 事務局長, etc.

第14回同窓会総会開催

岩手県支部長 小山田 厚

このたび、平成27年11月7日(土)に開催された総会において堀籠智志前支部長の後任として指名いただきました。よろしくお願いたします。

(昭和55年3月国文学科卒業)

当日は、副学長阿毛久芳先生をお迎えし総会后、「都留文科大学のToday and Tomorrow」と題し特別講話をいただきました。第三者評価や大学基準協会の認証結果についてお話をいただきました。60周年を迎え、これまで都留文科大学が充実した教育の質のものとに信頼を高めてきたか、また今後も発展を続けていくためにいかに改善を尽くしているか、改めて思い知った次第です。自分がその歩みの中で、大学生活を送ることができたことに感謝の念を強くしているところです。ましてや、「都留の恩返し」もせず、足も遠のいてばかりで心苦しさを感じております。支部長の任を預かることとなったのは、そうした心情のせいかもしれません。さらには東日本大震災への支援を本年もいただきましたことに、紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

さて、阿毛先生の講話終了後には、先生にも参加いただき29

名で懇親会を行いました。

その中には、本年平成27年3月の英文学科を卒業したばかりの宮野裕太くん(一関市立磐井中学校)の姿もありました。阿毛先生のゼミの卒業生もおりました。懇親会では、仕事、立場、年齢が違って同窓生一同、都留の思い出話を肴にうち解けていくのでした。

改選された支部役員は、以下の通りです。

Table with 4 columns: Position, Name, Birth Year, Education Level. Lists new committee members.



第12回「べにばな会」総会に集まろう

山形県支部長 鈴木 雄 二

山形県内の卒業生が集う第12回「べにばな会」総会を今秋開催しますので是非ご参集ください。

平成27年の山形県支部活動をご報告いたします。

2月7日、宮城県支部総会に神尾正俊置賜地区理事と2人で出席しました。東日本大震災を契機に「東北は一つ」というスローガンのもと、各県支部の連携強化のために、相互交流を行うことになりました。初めてお邪魔する宮城県支部でしたが、名誉顧問である鎌田光彦・鎌田清二兄弟のリーダーシップのもとに大変すばらしい活動をされていました。特に被災者支援のコンサートや激励会などの数々のボランティア活動の報告には思わず熱い涙があふれました。また、後輩を集めて教採学習会の開催などにも取り組まれ、本当にすばらしいと感じました。

4月18日には大学の同窓会理事会に出席して在学生に採用試験の情報提供と激励を行いました。

8月18日には創立60周年記念事業期成会に「べにばな会」より5万円を寄附させていただき、10月10日の記念式典には武田茂行顧問に出席をお願いしました。

最後に28年度の支部役員を紹介します。

- List of committee members for the next year, including roles like 顧問, 会長, 副会長, etc., with names and birth years.

すばらしき都留の仲間たちとともに！

宮城県支部長 菅原 義之

8月2～3日、本支部会のメンバー15名で、創立60周年を迎えた都留大学同窓生の総会へ出席を目的に、バスで「都留の恩返し旅行」を行いました。2年前にも行きましたが、今回もハプニングがあり、また楽しい思い出を都留の仲間たちとつくることができました。総会に出席された方々より、大歓迎されたことも貴重な思い出の1コマです。

また、毎年行っている「教員採用選考対策学習会」を、今年度は4回実施しました。豊富な講師陣により、充実した学習会にすることができ、受講者6名（うち現役都留大生3名）が見事合格することができました。反省・評価しながら、さらに効果的な学習会の実施を目指していきます。

昨年2月の支部総会には、福田誠治学長と山形県支部長にもご臨席いただき、参加者58名と共に都留の思い出を語り合いながら、楽しいひとときを過ごすことができました。

今後も、上記の活動の他、「被災地支援活動」等も継続的に実施しながら、すばらしき都留の仲間たちとともに本支部会のさらなる充実を図っていきたくと考えております。

結びに、同窓会長、学長、理事長、そして全国の同窓生の皆様からの温かいご支援に深く感謝申し上げます。

<平成27年度役員>

名誉会長 鎌田光彦 鎌田 清 小野俊次 千葉龍成 菅野俊雄

Table with 5 columns: 顧問, 支部長, 副支部長, 事務局, 会計地区役員. Lists names of various roles and members.



茨城県支部同窓会総会開催

茨城県支部長 宮内 健治

全国の同窓生の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。茨城県支部同窓会では、本年度8月末に土浦市のローブホテルで同窓会総会を実施しました。当日は、学長福田誠治先生にご出席いただき、60周年を迎える母校の現状をDVD映像を見ながら語っていただきました。大学の将来像や各方面の活躍（陸上部、合唱団など）はすばらしいことです。その後、親睦会をもち、自己紹介の後、大学時代に戻り歓談をしました。

私の勤務校（藤代高校）では、11月に大学見学会を行い、第2学年生徒30人、引率教員が都留文科大を訪問し、大学概要や入試等の説明を受け、学内の見学をしました。関係の皆様にご大変お世話になりました。

今回の総会で、長岡省一新支部長が承認されました。今後、新支部長の下で茨城支部の発展が期待されます。

- 顧問 宮内 健治 (昭52国文)
支部長 長岡 省一 (昭57英文)
副支部長 井坂 雄爾 (昭61初教)

- 理事 武田 真一 (昭57英文)
理事 新井田由美 (昭62英文)
理事 石川 順子 (平元国文)
理事 野口 修 (平元英文)
理事 関野 昌彦 (平6英文)
理事 赤荻佐知子 (平8国文)



学長 福田誠治先生をお迎えしました

群馬県支部長 齋木 雄造

群馬県支部では、平成27年8月22日（土）ホテルメトロポリタン高崎で第7回総会・懇親会を開催しました。当日は、お忙しい中にもかかわらず、学長の福田誠治先生にご出席いただき、先生をお囲みして大学の今とこれからの話について話を伺うなど、充実した特別の時間を過ごすことができました。

本県卒業生324名（H26.4.1現在）の皆様、在学生の皆様、群馬県支部では、今年も支部総会・懇親会を下記のとおり開催いたしますので、スケジュールに加えていただき、ぜひ、ご出席ください。

日時 平成28年8月21日（土）18：00
会場 ホテルメトロポリタン高崎（高崎駅ビル内）
なお、詳細は、大学HPに設けられている「同窓会ブログ」に掲載いたしますので、ご覧ください。

<群馬県支部役員>

- 支部長 齋木 雄造 (昭52国)
副支部長 熊川 稔 (昭49英)
原 俊明 (昭59英)
事務局 島田実恵子 (昭44初)

- 監事 金沢 和子 (昭54英)
土屋 勇 (昭57英)
庶務 安藤 貴子 (平5初)
江原 悠一 (平10英)
土屋 勇 (昭57英)
古川 整 (平11社院)



母校の発展に寄与できる新たな同窓会支部組織づくり

千葉県支部長 川名和則

都留文科大学創立60周年おめでとうございます。この記念式典行事をはじめ、堀内都留市長・大谷理事長・福田学長はじめ、役員や事務局の皆様方には、日頃の大学運営等に御尽力いただき、深く感謝申し上げます。

式典当日は、霊峰富士を拝めるほどの秋晴れに恵まれ、紹介された愛唱歌「都留はuniverse」や「現在、活躍されている学生たちの紹介」も披露され、同窓生として大いに感激させられました。

また、福田学長からは、新たなグローバル時代において、世界的に評価の高い国際バカロレア（IB）の教育プログラムに対応した日本で初めての教員養成課程を導入したい旨の挨拶もありました。

『アクティブ・ラーニングを中心として英語で議論したり、プレゼンテーションを行ったりする探究体験で、幅広くより深い教養に裏付けされた上に、目の前の子どもたちに合わせて身近な生活から適切な問いかけや支援ができる教員養成の学生を育てたい。』という力強い提唱が、今でも印象的であります。

今、日本の国公立大学の存続が危ぶまれる中、「世界に羽ばたく、クリエイティブリーダーを都留から発信できる『国際教育学科』の設立」は、快挙であり、全国ネットワークのある本

学にとっては、まさに、同窓会組織で支援していくべき時季だと考えます。

さて、このような状況下で、千葉県支部の取組は、現役学生へのキャリア支援の一環として、千葉県教員採用試験二次対策講座を開講し、早10年を迎えました。

大学側主催の現役学生への指導にも、4月と5月に大学を訪問し、元気な現役学生と面談させていただき、直近の千葉県への志願状況や採用状況を踏まえ、志願書の書き方や自己PR等も細かくアドバイスさせていただいております。

また、定期総会とは別に、現役学生を含めた若手教員と先輩教員との懇談会も実施し、個々の課題解決に向けたメンタルヘルスケア対策の一助として企画しています。

ここ数年、都留文大卒業生が十名を超えて千葉県内に採用されていることを嬉しく思うと共に『指導力と人間力溢れる都留文大生』を更に、育成していかねばならないという責務も感じている昨今であります。己に鞭打ちながら支援できる術を探っていきたいと思いますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



東京都支部の近況

東京都支部長 松本多加志

同窓生の皆様方におかれましてはご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

今年は、60周年に当たり、50年前の自分自身を振り返っています。皆様方も母校である都留文科大学時代の思いを一入深めていることと思います。

さて、平成27年8月23日に都留文科大学同窓会東京支部総会が開かれ、平成27・28年度新役員を承認いただきました。（全員が前回に引き続き担当）

総会に引き続いて行われた懇親会は、多忙中、大学より福田誠治学長、本部から原喜雄会長及び桐井幸雄副会長、そして興石東参議院副議長にご来席をいただきました。皆様方より「大学が新たにチャレンジすること」「これからの同窓会の発展に向けて」「これからの日本の教育について」など貴重なお話をいただくことができました。

また、60周年記念DVDを通して、現在の都留大の様子を何うとともに、自身の学生時代を振り返り、互いの絆を深める活発な懇親会となりました。

<平成27・28年度 東京都支部役員>

支部長	松本多加志（昭44）	
副支部長	黒田 賀代（昭32）	長沢 和子（昭43）
	橋本 秀夫（昭44）	
庶務	奈良 覚（昭45）	榛原 紀子（昭58）
	田村 聡（昭62）	西村 学徳（平12）
会計	矢野 優（昭47）	高野 明彦（昭49）
会計監査	松田 篤郎（昭42）	泉 宜宏（昭47）
相談役	桐井 幸雄（昭32）	小林わか子（昭31）
	福元 弘和（昭42）	岩木 晃範（昭42）



板倉支部長がご退任

神奈川県支部長代行 松下 登志男

神奈川県には、約2,000名の同窓生が在住していると思われ、平成16年度の同窓会名簿発行以後の卒業生については、県内在住者の把握が非常に難しくなっており、実数確認ができておりません。そうした中で、同窓会の活動は、各市町村等を単位とした会合等を中心に行われ、県全体を網羅した活動ができていないのが実状です。

相模原市の同窓会は「飛翔の会」の名で、毎年多くの会員が集まり、充実した交流を展開しています。今年度も11月27日に定例の会が開かれました。来賓として同窓会本部から原喜雄会長、大学から金山光一特任教授のご臨席をいただくことができ、およそ50名の出席のもと、活動報告や近況報告などがあり、和やかな雰囲気の中で話がはずみました。

席上、平成8年に神奈川県支部が発足して以来、19年にわたって支部長をお務めいただいた板倉忠臣支部長からご退任の意向の申し出がありました。板倉支部長は現在も大変お元気ですが、昭和31年3月の第1回卒業生で、各県の支部長の中でも最高齢であることなどからお申し出を受けざるを得ない

と判断され、後任について協議してまいりました。

当面、支部の事務局長を務めている松下（昭和42年卒）が支部長代行を務めさせていただき、事務局長代行に山田節朗さん（昭和46年卒）に就任していただくことになりました。

いずれも次期総会までの暫定措置として、県内の会員の皆様にご承諾いただきたいと思っております。

次期総会は今年秋に開催したいと考えています。総会の際には、講演会（講師未定）と懇親会をもつつもりです。会員の皆様にはご案内を送付いたしますが、もし9月末までに届かない場合は、住所等が把握されていないと考えられますので、ご面倒をおかけしますが、下記に氏名・住所・電話番号・卒業年をご連絡くださるようお願いいたします。正確を期すために、葉書またはFAXでお願いいたします。

連絡先 松下 登志男 宛
〒252-0231
相模原市中央区相模原6-17-14
電話・FAX 042-755-4137

平成27・28年度山梨県支部総会開催

山梨県支部長 水上 昭夫

7月26日(日)に支部の活動の1つである山梨県支部主催の「山梨県教員選考検査二次試験対策学習会」が、同窓会本部のご支援・ご協力を得て実施されました。来年度の山梨県公立学校選考検査の志願者総数は前年度より49人増の1,120人、倍率6.36倍は前年度を0.24ポイント上回る大変厳しい状況にあるなかで、学習会には熱心な学生達が参加しました。

当日は、選考試験の対策や面接検査等々の実際を学ぶと共に、教師としての資質・能力や目指す教師像、学校現場の問題や課題を踏まえた教育観等々について互いに学び合いました。そんな学生達の真剣な目差しには、教師を目指す力強さを感じました。

さて、同総会員3,570名(「同窓会報第33号」より)の山梨県支部総会が、平成27年8月2日(日)午後1時から、本会の総会を前に開催されました。支部総会にあたっては、7月10日(金)に役員会を行いました。総会では事業報告や平成27・28年度の新役員・事業計画・予算が承認され、新たな支部同窓会の活動がスタートしました。

〔平成27・28年度山梨県同窓会役員〕

山梨県支部同窓会総会において、下記の通り役員が承認されました。

- 会 長 水上 昭夫
- 副 会 長 松土 仁郎 石井 正巳
- 事 務 局 長 丸山 一彦
- 事務局次長 岩間 好久 笹本 忠彦
- 東山支部長 鈴木 茂
- 笛吹支部長 一之宮英文
- 西八支部長 一瀬 英治
- 南巨支部長 若林 四郎
- 中巨支部長 小田切道之
- 北巨支部長 作地 眞
- 南都支部長 奥脇 隆樹
- 北都支部長 赤松金次郎
- 甲府支部長 石田 一元

3年ぶり 第17回静岡県支部総会

静岡県支部長 清水 猶

昨年10月、3年ぶりの支部総会を伊豆の国市長岡で開催しました。長岡は、明治日本の産業革命遺産であり、国内で唯一現存する実用反射炉がある【韮山反射炉】に隣接する街です。総会には、20人の出席。久しぶりの中部から3人の出席、3人の現職会員の出席もあり中身の濃い総会になりました。しかし、静岡県関係卒業生は、大学の地元山梨県に次ぐ1,400人余人という同窓生の数だけに一抹の寂しさを感じられたのも本音でした。

総会では、出席者全員の近況報告に始まり次に第16回以降の活動報告、会計報告、役員改選、支部規約の見直しを行いました。



総会後には、同窓生事務局から送付いただきました『都留文科大学創立60周年記念映像』を全員で視聴しました。懐かしい学生時代

そして在学当時に比べはるかに変容したキャンパスの映像を視聴し、それぞれに異なった感嘆の声が洩れるやら会話が弾み、ある者は方丈記の序文を浮かべたりする一コマが見られました。

場所を変えての「懇親会」歌詞を間違えることなく全員で高らかに合唱。いつときたりとも静寂な時は無し。昭和33年卒業生から63年までの卒業生、30年の年月の隔たりなど無しが如し。会はマックスに盛り上がり、「まだ、まだ。」「もう少し。」の声が聞かれる中、全員の息災を祈念するとともに、平成28年第18回支部総会での再会を約束し、閉会となりました。

☆平成28・29年度静岡県支部役員

- ◇ 顧 問 古泉 嘉一 永田 富男
- 松島 温通 鶴見 親義
- 清水 猶
- ◇ 支 部 長 白井 泰
- ◇ 副支部長 工藤 誠 大場 孝純
- 江川 初枝
- ◇ 事務局長(庶務会計) 星屋 康
- ◇ 理 事 西島 敏雄 森山 和保

第4回長野県支部総会～42歳の年齢差

長野県支部長 堀内 敏明

本支部は4年前に全国で36番目の支部として発足し、会員数は1,106名です。本年度は福田誠治学長と原喜雄同窓会長をお招きし、10月24日(土)に佐久平プラザ21で総会及び懇親会を開催しました。総会には11名、懇親会には10名の参加がありました。本支部の特長は、設立以来、参加者の年代層が幅広いことです。

総会で福田誠治学長より大学について、原同窓会長より事業についてお話をいただきました。また、議事で26年度事業報告及び会計・監査報告、27年度事業計画及び会計収支予算が承認されました。

総会の会場は、これで4地区全てで開催しましたので、来年度は10月に長野市で開催予定です。

会費納入者が減り、返信される方も2割弱の現状から、昨年度まで返信用葉書を案内状に同封していましたが、本年度は料金後納葉書を使用しました。会計が逼迫していますので、今後は会計状況により、これまで会費を一度も納入せず返信もされなかった方への案内は出さない年もあることをご了承ください

い。また、公平性から会費をなくし、本会からの助成金のみで運営していこうとも考えています。

【長野県支部役員】

- 支 部 長 堀内 敏明 (1980年卒)
- 副支部長 小林 久通 (1982年卒)
- 同 塩澤 忍 (1983年卒)
- 監 事 小野沢伸二 (1988年卒)
- 事務局長 市村 一彦 (1989年卒)



清水栄副支部長の死を悼む

岐阜県支部長 山本吉朗

同窓会岐阜県支部を共に立ち上げた清水栄副支部長の訃報を知り、通夜式に参列したのは、平成27年8月8日のことでした。あまりにも突然のことで呆然としてしまいました。

彼は、昭和42年度の英文科卒業生ですが、都留文科大学英文科ESSクラブの生みの親でした。

ESSクラブは、大変積極的に活動をしていました。桂川祭では、市民会館で、「夕鶴」や「マクベス」を英語劇で上演したとのことで

す。その当時のESS会員にとっては大変思い出が深いであろうと思います。また、本栖湖畔でのサマーカーンプや富士登山を行って親睦を深める活動等も熱心に行い信頼の厚



いリーダーであったそうです。大学卒業後は、岐阜県教員として奉職されてその力量を十分に発揮されました。退職前の15年間は、管理職として社会の急激な変化の中、教育制度や仕組みが急激に変わる時代になりましたが、それらに対応するための柔軟な考え方や言葉に感わされない確固たる信念で学校経営に当たられたとのことです。

同窓会岐阜県副支部長としてもその熱い情熱と積極的な姿勢で支部の活動に当たっていただきました。本当に大切な人を失いました。残念で仕方ありません。ご冥福をお祈りいたします。

○ 本年度の都留文科大学同窓会の理事会の折に、懇談をした本県の卒業生2人が岐阜県教員採用試験の一次合格をしたとの件をキャリアサポートセンターから伺いました。そこで、岐阜県の採用二次試験の事前対策としての論文問題や記述試験対策問題などを実施している岐阜県同窓会支部役員から資料を頂き、2人に渡して事前勉強をしてもらいました。幸いにも2人とも二次試験を突破し教員として教壇に立つことになりました。今後の活躍を期待しています。

○ 来年度は、役員改選、総会、会費徴収年度にあたります。会員の皆様のご支援とご協力を！

母校の将来に生きる支部活動に

富山県支部長 高木 要志男

母校都留文科大学が創立60周年を迎えた記念すべき本年度7月25日、富山県支部も創設20周年の総会を行いました。来賓講師には福田誠治学長をお招きし、今後の大学の構想や大学入試の在り方等について興味深いお話をうかがうことができました。福田学長には心よりお礼を申し上げます。



さて、富山県支部が20周年を迎えることができますのも、母校には日本中から学生が集まり、歴代の学長先生方の時代を越えた大学経営、教職員熱心なご指導のもと、公立大学としての実績を着実に積み重ねてこられたお陰であります。私自身も、先生方や同級生、後輩諸君はもとより、地域の方々との温かなかわりを通じて自己形成ができたものと感謝しております。

懇親会では、在学当時を懐かしむ会話に終始するのではなく、現在の状況をもとにこれからの大学教育に寄せる期待や富山県支部としてどういう活動をすべきか熱く語り合う姿が随所に見られました。



今回、38名の出席者があり、昭和40年卒から平成27年卒までの会員の年代層のバランスがよくとれていました。目標としていた80名の約半数ではありません

たが、各年代層からの参加があったことは手応えのある成果でした。とりわけ、平成19年卒から平成27年卒までの若い諸君の参加が10名あり、彼らの爽やかな振る舞いを見るにつけ嬉しく思いました。

7月の総会から5か月後、12月27日には、顧問である元支部長4名の方々とともに「新採者を励ます会」を催しました。この会には総会に出席した若い諸君も参加しています。この会の趣旨は、教員採用の合格を祝うとともに、3か月後に教壇に立つことを目前にした不安を少しでも払拭してもらうことにあります。

新採者からの質問事項には、「学校に赴任する(4月)までに、心の準備をどうしたのか。また、どのような物を揃えたか」「教員の一日の流れを知りたい。(例：一息つける時間はあるのか)」「子どもたちの中では流行っていることをどのようにキャッチしているか」「ストレスを解消するにはどんなことをしているのか」「いじめの早期発見方法は？」などがあり、若手の先輩諸君は、自分の実践や経験をもとに、的確な回答をされていました。



わたしたちは、教員採用試験の学習会の延長として「新採者を励ます会」をとらえています。4月以降も新採者のよき相談相手となること、支部会員の一人として交流すること、親睦を図ることを大事にしていきたいと思えます。

卒業生が、教員として、あるいは社会人としての自立を目指す中で、わたしたちはたとえ僅かでも有機的に働く契機となり、心の支えとなっていく支部活動を継続したいと考えています。そのことは、未熟な私たちを育てていただいた都留文科大学への恩返しであり、母校の今後の発展に寄与することになると確信しています。

石川支部総会

石川県支部長 西田良治

11月14日、北陸新幹線開業で賑わうJR金沢駅前の金沢都ホテルで、平成27年度総会を開催。遠くはNHK朝の連続ドラマ「まれ」で脚光を浴びた能登半島輪島市より、県内各地から21名が集い久しぶりに旧交を温めた。

会の冒頭、俳人加賀千代女の研究者である山根公氏(66年卒)より「谷村と芭蕉」と題してミニ講演を拝聴した。天和2年(1682)の暮れの大火で、深川芭蕉庵を失った俳聖芭蕉は、弟子の秋元家家老高山伝右衛門繁文の勧めで、谷村(現在の都留市谷村)に5ヶ月間滞在した。「甲州谷村城繪圖」を基に、桂川の名勝「田原の滝」での句「勢ひあり氷消ては滝津魚」の紹介等大変興味深く、また懐かしいものがあった。

懇親会は、初参加者を交え互いの近況を報告し合い、和気藹藹の中進められた。最後に「花の影」を全員で唄って散会となった。(その後、北陸一の繁華街片町へと颯爽と出かけた人たちの行方はしかと分かりかねるが・・・)

なお、教員を志願する学生への模擬授業及び面接指導についてであるが、毎年元面接官や石川師範塾講師等OB4~5人で

半日かけて懇切丁寧に指導している。その甲斐あってか、H25年は1/2、26年は4/5、そして今年は2/3と極めて高い合格率であり、指導する側としても嬉しい限りである。今後とも後輩のために少しでもお役にたてればと願っている。



「支部設立21年目の総会 ～福田学長をお迎えて～」

福井県支部長 荒木 基 裕

昨年度は福井県支部「城山会」が設立20周年ということで、母校を訪れて総会を開催しました。お世話になりました関係の皆様、ありがとうございます。

今年度の支部総会は、11月7日（土）に福井駅東口にあるアオッサで行いました。当日は福田学長にお越しいただき、都留文大60周年に関連してお話を伺いました。昨今の教育に関する話題や大学の未来のを中心に、福井県の教育にも関連する内容でした。質疑も含めると、予定していた時間を30分ほど超過するという、とても熱のこもった講演をしていただきました。総会、講演会、懇親会まで含めると、参加者は総勢40名で大変に盛り上がった会となりました。

講演会まで参加された方、懇親会から参加された方、途中参加の中には懇親会終了前30分になって駆け付けられた方など、いつも増して多くの同窓生の方々においでいただきました。また、昭和39年に卒業され初めて参加された方、名古屋からおいでいただいた一般企業に勤務の方、そしてこの会のためだけに夜行バスで往復された現役の学生さんなどなど、顔ぶれも本当にいろいろでした。それでもそこは「同窓生」のありがたさ。和やかな雰囲気にもまれてあっという間に時間が過ぎていきま

した。ご参加いただいた皆様、楽しいひとときを本当にありがとうございました。なお、講演会直後に写真撮影を行ったため、おいでいただいたすべての方に集合写真に入っていたけなかったことについては、大変申し訳なく思っています。

最後に、次回についてのお知らせです。来る平成28年度の支部総会を次のように予定していますので、今から皆様の予定に入れていただけると幸いです。

期日： 平成28年11月5日(土)

場所： アオッサ3F『ウェルアオッサ』
(今年度と同じところ)



愛知県支部総会を終えて

愛知県支部事務局長 長尾 隆

1 県支部の活動

愛知県では、県内を8地域に分けて、持ち回りで年1回地域交流会を開いている。今年は豊橋の地で12月19日(土)に第11回の会を行った。この交流会を開くことでそれぞれの地域における活動の様子を共有し、励まし合っている。また、各地域での、同窓会員の洗い出しや新規採用者の情報交換も行っている。そして、今後の課題も報告され、5年に1度開かれる県総会に向けての話し合いを行っている。

2 第4回県総会

5年振りの県富岳会総会が10月25日(日)にルブラ王山で行われた。学長の福田誠治先生をお招きし「大学の現状と展望」についてお話をいただいた。今回は84名の会員が参加した。その中には平成27年卒のフレッシュな教員もみられた。

また、同窓会会員であり岡崎市教育委員会教育長の高橋 淳先生にも参加いただき、ご挨拶をされ、とても実のある会になった。



10月25日（日）ルブラ王山にて

《平成27年度県支部組織》

支部長	平手孝幸 (名古屋55初)
事務局長	長尾 隆 (名古屋57初)
地域幹事	名古屋 竹内義信 (58初)
	尾 張 竹谷竹久 (54初)
	西三河 平岩康彦 (58初)
	海 部 平野 豊 (56初)
	東三河 岩瀬雅洋 (57初)
	知 多 山本 肇 (56国)
	豊田・みよし 杉浦俊孝 (58英)
	新城設楽 後藤康仁 (58英)

時うつり、人はかわれど...

奈良県支部長 岡田 善 英

平成27年8月23日に第4回奈良県支部総会を学園前の中国料理店「銀座四川」にて開催しました。今回は7名の参加で少し寂しい会になりましたが、総会終了後の懇親会には、大学の思い出話に時の経つのを忘れて語り合い、いつまでもみんなの力で支部の灯をともし続けようと誓い合いました。

そして、その中でも10月10日に開催される「都留文科大学創立60周年記念式典」が話題になりました。私自身、卒業以来訪れていない都留の町への想いは膨らむばかりでした。そんな折、記念事業期成会からご案内をいただきましたのを機に、支部を代表して記念式典に出席させていただきました。

40数年ぶりに訪れた都留の変化、発展ぶりには驚きました。街を歩いてみると、新しい建物、新しい道ができていて、昔の面影を見つけるのにひと苦勞。近代的な都留文科大学前駅に比べ、あの谷村駅舎が今も昔の佇まいを残していたのにほっとしました。桂川の端を渡り、城山に登ってみると、はるか向こう

に富士山がかすんで見えました。この風景は昔のままです。学生時代に通った道をたどり大学に向かうと山裾には数々の校舎が立ち並び、その充実ぶりがうかがえました。新築の本館しかなかった頃がうそのようです。うぐいすホールでの式典では、大学の歴史を受け継ごうとする学生たちの力強く真摯な姿を見せていただき感動しました。帰り道は、私の胸に「時うつり、人はかわれど、わが都留は永久にかわらじ」の言葉が浮かびました。



支部設立10周年記念・母校都留大を訪ねる旅

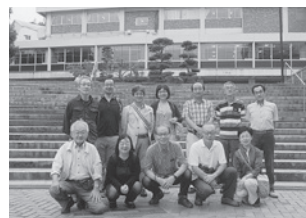
三重県支部長 松本 正 美

平成27年度（第10回）総会を6月6日、県教育文化会館多目的ホールに於いて、初参加2名を含む23名の参加を得て開催しました。本年度は支部設立10周年という節目の年でもあり、母校を訪ねる旅や記念文集の作成などの記念事業を実施することも承認されました。総会後のミニコンサートでは、久居少年少女合唱団のみなさんによる天使のような歌声を聴かせていただき、参加者一同目を細めながら和やかな時間を過ごしました。その後の懇親会でも終始懇談の花が咲き、思い出に残る時間となりました。



H27年度 三重県支部役員

- 顧問 山本征也 中矢泰之
- 会長 松本正美
- 副会長 福田和幸 米岡久美子
- 監事 近藤澄子 海住 壽
- 庶務 六田嘉郎 中田善美
- 田畑繁行 松岡みつ子



◎母校都留大を訪ねる旅

8月24日～25日、総勢12名の参加者で、母校都留大を訪れました。1日目、三重を出発し、白糸の滝を見学後河口湖の旅館へ。2日目は朝から都留大を訪れ、午後はりニア見学センター見学後、帰路につくという日程でした。母校では自分達が学んだ校舎や都留市のイメージとは一新したすばらしい大学環境や都留市の発展に目をみはり、青春時代を過ごした下宿や街並みを散策しながら、自分達が鍛えられた原点を再確認する旅ともなりました。なお、大学案内では事務局の谷内さん達には大変お世話になりました。さらに新しい母校の思い出が増えました。

第25回兵庫県支部総会

兵庫県支部副会長 後藤 純 二

平成27年度、第25回兵庫県支部総会を6月27日（土）に、神戸市にある「パレス神戸」において開催しました。素晴らしい会場が準備され、県内全域から多数の参加がありました。第1部は平成26年度事業報告、平成27年度事業計画、また大学の現状報告などが行われました。

引き続き「歌の力を信じて～阪神・淡路大震災から20年を迎えて～」と題して、神戸市立西灘小学校主幹教諭 白井 真先生にご講演をしていただきました。

先生は20年前大震災を経験され、我が家を失い、親類宅と避難所になった学校での大変な生活を送られている時、自宅のあった東灘区を含む三宮の街が大火災で消えていくのを目の当たりにし、故郷「神戸」への愛情や思いが込み上げ「しあわせ運べるように」という震災をテーマとした歌を作詞・作曲され、悲惨な状況のなか、多くの人達の心を癒やし、子どもたちを指導されてきたお話は涙なくしては聞けませんでした。最後にはピアノで、その歌を演奏していただきました。

親睦会では都留での懐かしい思い出話や、これから卒業してくる都留の後輩たちに対してどのように支援をしていけばいいのかなど、澁谷会長を中心に同窓会の絆を一層深める楽しいひと時を送ることができました。終わりに親睦会にもご参加された、白井 真先生の演奏で、いつもの様に「花のかげ」を全員で合唱し終了しました。

平成27年度役員

- 名誉顧問 赤穂 栄一
- 顧問 井上 弘和
- 会長 澁谷 訓生
- 副会長 中野 壽志
- 小林 怜子
- 後藤 純二
- 事務局長 高谷 和久
- 事務局次長 松尾 弘子
- 会 計 川野 憲廣
- 会計監査 牛尾 英俊
- 各地区役員理事 三木 健司 北倉 一正 青木 芳信
- 茶谷 紀元 苗村 道弘 中村 市衛
- 中嶋 明美
- 副 理 事 中山 貞二 大榎 恒年 辻奥 彰
- 網谷昭二郎 小林秀一郎 吉本 健治
- 庄田 康夫



京都府支部第2回総会と懇親会

京都府支部長 枅谷 雄 三

平成27年12月6日（日）に、第2回京都府支部総会・懇親会を昨年支部設立総会の時に使用した京都駅の「ホテルグランヴィア京都」で行いました。

総会で新役員が承認されました。支部長挨拶に続き、京都府支部立ち上げに奔走して下さり、今回体調不良のため顧問になっていただくことになった前支部長の酒井好治氏（昭和45年卒）に感謝の花束を贈りました。

全員で26名の参加でした。引き続き、活動報告、会計関係の議案が提案され、全会一致で承認されました。

第2部の懇親会は、会計担当の中山氏の名司会で始まりました。バックグラウンドミュージック・映像は、「60周年記念映像」です。これをコピーし参加者全員にお土産として持ち帰っていただきました。

本学同窓会理事会（於：都留文科大学）の報告、総会の報告もされました。とりわけ、京都府・市の教員採用を目指す学生との懇談は参加者の目を引いたようです。

初めて参加された方の自己紹介、昨年の自己紹介で消化不良だった人のスピーチと楽しく時は過ぎ、「花のかげ」と「各々

京を目指しつつ」の歌詞のある「武田節」の合唱で締め括り、二次会へと流れました。

【京都府支部役員】

- 支部長 枅谷 雄三（S45卒）
- 副支部長 北村 友子（S49卒）
- 事務局長 草野 真（S52卒）



滋賀県支部が結成1年
第2回支部総会と懇親会を実施

滋賀県支部長 松嶋孝雄

滋賀県内の同窓生皆が渴望してきました積年の大きな思いが実を結び、昨年滋賀支部が結成されました。

支部結成1年を経て、第2回支部総会と懇親会が、福田誠治学長先生をお迎えし、平成28年1月9日に開催できました。

福田誠治学長先生が、本支部事務局長（村田氏）のゼミの指導教官であったという縁で、第2回支部総会の場でも、プレゼ



ン形式で、フィンランドの初等教育事情について、ご講演いただきました。

定年後就任していた教育委員を退き、殆ど教育界と無縁の私にとっても心惹かれ、目を見開かされるお話でした。参加者は、現職の先生方が殆どでした。参会の先生方にとっても自身の教師としてのバックボーンを揺す振るお話だったと思います。

正午過ぎに、懇親会が始まりました。思い出話に花が咲き、本当に楽しい一時でした。

滋賀県支部役員

- 支部長 松嶋孝雄（昭和46年度教卒業）
- 副支部長 大澤 裕（昭和56年度国卒業）
- 会計監査 大橋雅子（昭和57年度教卒業）
- 中村雅昭（昭和58年度教卒業）
- 事務局長 村田良文（昭和58年度教卒業）
- 事務局 齊城勝美（昭和59年度教卒業）
- 片岡博義（昭和59年度教卒業）
- 鳥飼雅一（昭和59年度教卒業）

人の出会い（邂逅）に絆を

広島県支部会長 小谷桂司

今年度も卒業する学生から「採用試験に合格」のお手紙をいただきました。

4月・5月の1日、大学での在校生との教育採用試験に向けての懇談会や模擬授業・面接に関わって助言させていただき、前述のような手紙をいただく度に、自分なりに教員生活を全うできた自分を育てていただいた大学・都留市・同窓生に感謝ばかりです。

また、後輩が「教員への道」の扉を開く事への一助になる出会いがあったことにも感謝です。

今後、先輩として「現状の学校教育・職場の大変さ」を身を持って体感する後輩に、十分な支援ができる広島県支部であり続け、「人に絆を」持つ学校教育（次代を担う人間力を持った子供の育成）に、少しでも関わっていきたく願う



ばかりです。

支部活動は、まだまだですが、多くの方がたのお力をいただきつつ、着実に進めてまいりたいと思います。

丙申 猿が如く 一歳を
知恵を活かして 時を創らん
桂 歴代

平成27年度役員

- | | | | | |
|------------|-------|------|------|------|
| 顧問 | 金久睦彦 | 中西正一 | | |
| 会長 | 小谷桂司 | | | |
| 副会長 | 表 善彦 | 目崎仁志 | | |
| 事務局長(兼:会計) | 二宮 正 | | | |
| 理事 | 玉山 洋 | 田丸正実 | 宮本 仁 | 山城義明 |
| | 猪原憲三 | 本宮達弘 | 土橋義信 | 三永政幸 |
| | 池田桂子 | 島本智子 | | |
| 監査役 | 五葉木輝正 | 白石 隆 | | |
| 幹事 | 山中 護 | 田辺恵子 | 兼丸裕子 | 安藤正弘 |
| | 奥窪尚昭 | 末房朋子 | 福岡武志 | |

12周年を迎えた岡山県支部

岡山県支部長 原田直樹

都留文科大学創立60周年おめでとうございます。母校の今後ますますの発展を祈念しております。

さて、私ども岡山県支部も設立12周年を迎えております。母校の発展に寄与できますようこれからも支部活動を充実させてまいり所存です。本部の御支援を引き続きお願いいたします。

平成27年2月11日に公立学校共済施設「ビューアリティまきび」で支部総会を開催しました。あわせて設立10周年を記念して発刊した設立10周年記念誌のお披露目も行いました。

掲載の写真が総会参加者です。前年度を上回る14名の参加があり、若い世代の参加が会場をひととき華やいだものにしてくれました。スライドショーをとおして母校の現在を感慨深く受け止めながらも往時の都留の思い出を語り合い、楽しい懇親のひとときを皆さんとともに過ごせたと役員一同うれしく思っております。

毎年支部総会は2月11日頃を予定していますので、懐かしいお顔をお見せください。若手の会員もぜひ参加してください。今後の岡山県支部発展のためには皆さんのお力添えが必要なのです。「若返ろう、岡山支部」お待ちしております。

岡山県支部役員

- 支部長 原田 直樹
- 副支部長 菱川 徹
- 理事 岩城 孝志 坂上 信二
- 中野 元雄 土師 康生
- 監査 川口與志継 岩崎 美幸
- 事務局 岩城 孝志 岡本 智江
- 野崎 博子



鳥取県支部の近況

鳥取県支部長 山本 英明

天高く澄み切った秋晴れのもと、平成27年11月23日(日)に都留文科大学同窓会鳥取県支部総会ならびに懇親会を開催しました。あらかじめ勤労感謝の日に開催すると決め、参加しやすくしています。例年20名前後の参加者を得ています。

総会において、支部長の理事会参加報告、新役員の選出や今後の活動についての承認がされました。また、元支部長の飛村淳氏が秋の叙勲、瑞宝双光章を受章され、皆で喜び合いました。

総会の後の懇親会では、参加者手作りの大学周辺の拡大地図を指さしながら、学生時代にタイムスリップして、下宿生活や部活動、ゼミや行事等の思い出話に花が咲きました。年代や学部を超えて、皆さんがつながる和やかな時間となりました。近況報告では、家庭や地域・職場で取り組んでいること、退職後の家庭菜園や旅行などの趣味、健康管理や地域でのボランティア等の話題で盛り上がりました。大学で過ごした青春時代が今の私たちの生活の基礎になっていることを再確認しました。

今後も肩の凝らない和やかな集りとしながらも、会員の輪を広げ、会員同士の交流をより活発にしていきたいと思っています。今回参加できなかった皆さんの次回の参加を楽しみにお待ちしております。

ちしています。

最後になりましたが、都留文科大学創立60周年、誠におめでとうございます。大学、同窓会の益々のご発展を祈念し、近況報告とします。

◎平成28、29年度 支部役員

- 会 長 山本 英明
- 副 会 長 小山 敏夫 古都 英幸
- 監 事 秋田 憲一 真島 佑二
- 事務局 長 名越 潤
- 席 務 岡田 栄子 西田 智貴
- 谷口 俊則



支部設立11年目を迎えて

鳥根県支部 大島 英明

平成27年8月28日(金)に都留文科大学同窓会鳥根支部の総会ならびに懇親会を開催しました。役員会→総会と隔年ごとに開催していますが、総会としては久しぶりに参加者10名を超え、11名となりました。

今年は、大学創立60周年ということで「大学の60年をふり返る」VTRを閲覧したり、それぞれの近況を報告したり、懐かしい都留の話題等で盛り上がりました。

この席では今後のあり方についても話題となりました。さらに充実・発展する支部となるには、会員相互の連絡が必要であり、近隣にいる会員に声を掛け合い、つながりを深め合っていくことが大切であるということから、ホームページまたはブログの開設を考えているところです。

昨年、役員改正を行い、設立当初から会長を務めて頂いた木村氏に顧問となっただき、会長には事務局長であった小藤氏が就任しました。

以下、決定した新役員を紹介します。

鳥根県支部役員(卒業年度)

- 顧問 木村晴男 (S44)
- 支部会長 小藤 貢 (S45)
- 副 会 長 服部哲郎 (S44)
- 榎野博巳 (S45)
- 飯島良子 (S53)
- 理 事 寿 慧信 (S42) 池田 稔 (S43)
- 伊藤 博 (S44) 古瀬厚義 (S46)
- 大島英明 (S59)
- 事務局 長 大島英明 (S59)



つながり、広がれ高知県支部の輪

高知県支部長 前田 志郎

平成15年6月に高知県支部が結成され今年で13年目を迎えました。全国一少ない同窓生の県でありながら、支部設立に尽力された諸先輩方のおかげで、支部総会・親睦会が継続されています。今年8月1日(土)に高知市にて総会及び親睦会が開催されました。連日の猛暑は一段落したものの、朝から晴れ渡り最高気温34度と暑い一日でした。今回は同窓生8名の参加で、温かな雰囲気の中親睦を深めることができました。

まず、総会では「花のかげ」を全員が斉唱してから始まるのが恒例となっています。続いて前田会長のあいさつや出席者の自己紹介・近況報告等がありました。前田会長からは4月に行われた在学生との懇話会で、本県出身者と会ったことのお話があり、参加者一同が、まだお会いしていない同窓生の今後の一層の活躍を祈念したとのことでした。そして、平成26年度の事業報告・決算等が報告され、平成27年度の事業計画・予算について承認されました。今年が大学創立60周年と記念すべき年であり、大学から連絡のあった創立記念事業に向けて支部として

の対応や支部の活動計画を中心に協議しました。特に、今後の活動計画については、大学関係者をお招きしての講演会や大学行事への参加、県内外での宿泊研修など、皆様から楽しいアイデアがたくさん出されました。高知県支部としては、継続して総会・親睦会は行っているものの、参加者が固定化されているのが現状です。県内の同窓生が一人でも多く参加できるよう、声をかけ合ったり、広報を工夫したり、これまで以上に同窓生とのつながりを広げ、深めようと確認しました。

親睦会では、高知の新鮮な食材の料理をいただきながら、都留での学生生活やご指導いただいた先生方との懐かしい思い出話がだされ、卒業年度を越えて交流を深めながら楽しい時間を過ごしました。

今回は、平成28年8月の第一土曜日に開催予定です。多くの方にお越しいただき旧交を温めていただきますよう、皆様の参加をお待ちしています。

(文責 田辺 長美)



「都留でつながる」

愛媛県支部副会長 藤田典子

平成27年は、都留文科大学創立60周年を迎えるとの知らせを受け、愛媛の地でも県人会を開催しようと、準備に入りました。支部設立から13年、3回目の県人会となるのですが、274名の同窓生への連絡はなかなか難しく、日頃のコミュニケーション不足を痛感しました。谷川会長様を始め、役員の方々のご尽力で、8月22日に松山で開催することができました。10名と少人数の出席ではあったのですが、総会で26年度の活動報告・決算報告、27年度事業計画並びに支部役員が承認された後、懇親会に移りました。谷川会長が創立60周年を迎える大学の着実な歩みと大学周辺の変容の様子を語ってくださいました。都留という小さな街で過ごした青春時代の思い出を一人一人が懐かしく語るとともに、近況報告を行い交流を深めました。都留で培った人間力が今日の支えとなり、皆様が素晴らしい活躍をされています。

私は大学時代、合唱団で“メサイア”を歌う中で仲間との絆を深めました。卒業して45年の今も、仲間とつながっているのですが、昨年11月に高松市で行われた全日本合唱コンクールを聴

く機会がありました。見事、日本一の栄冠に輝いたのです。その歌声の清澄な響きに心を奪われました。感無量でした。在校生の溢れんばかりの情熱に心から拍手を送りたいと思います。

そして「都留でつながる」を合言葉に、支部の輪が、大きく広がることを願っています。

〈支部役員〉

- 会 長 谷川 忠孝
- 副 会 長 杉田 正高
- 立石 康
- 藤田 典子
- 理 事 長 越智富士雄
- 理 事 池田 正次
- 山本 正則
- 監 事 越智富士雄
- 事務局 長 野井 純



大学時代の思い出、そして今

熊本県支部 杉水 修

教師になりたいという夢をかなえるため、また、親元を離れての一人暮らしにあこがれて都留文科大学に入学したのは、もう30年以上も前のこととなります。4年間の在学中に何度か引越しをしましたが、最初に入居した都留市駅近くのアパートの窓からは遠くに富士山が見え、「ずいぶん遠い所に来たなあ」と感じたものでした。

私は初等教育学科で音楽を専攻していました。1年生の頃の音楽棟は木造でかなり古く、今にも壊れそうな建物だったのですが、2年生か3年生の頃だったでしょうか、建て替えられてずいぶん立派になりました。新しくなった練習室でコツコツとピアノの練習をした記憶はあまりありませんが、3年生の時の発表会で大失敗をしたことや、サークルや有志が集まってホールや講義室を借りてコンサートを開いたりしたこと等はよく覚えています。大学のホームページを見ていたら、動画で各施設が紹介してあり、30年前に建てられたこの音楽棟が今でもきれいなままで使われている様子を見ることができて、たいへんうれしく思いました。

長期休暇になると部活動の先輩が支配人をしている山中湖近くの宿泊施設でアルバイトをしました。ここでは大雪の日に雪

かきをしたことや、-15℃という気温を体験したこと等が強く印象に残っています。熊本で生まれ育った私にとって、この寒さや雪の多さは想像を絶するものでした。この宿泊施設では、コテージの掃除等よりも、厨房での仕事に多くの時間を費やしました。私が最初に任されたのは、キャベツの千切りでした。毎日3個程を千切りにしていましたが、はじめのうちは慣れなくて時間がかかり、爪や指先を切ったりしていました。そのうちにだんだん包丁の使い方にも慣れてきて、早くできるようになり、千切り以外の仕事も少しずつ任せられるようになりました。ここで料理についていろいろと教えてもらったことは、その後の生活にもたいへん役に立ちました。

卒業後は熊本に戻って教職に就き、県内の小学校に勤めてまいりました。同窓会の仕事をするようになったのはつい最近なのですが、2年に1度の総会や年に1度の役員会で先輩や後輩と一緒に懐かしい大学時代の話ができるのを楽しみにしています。今年度の異動では、私を含めて3人の同窓生が熊本市教育委員会の配属となりました。3人とも初めての行政での仕事ですが、同じ大学出身の仲間がいることはたいへん心強いものです。

また、長い間厳しかった熊本での教員採用試験ですが、最近合格したという嬉しいニュースも、よく聞かれるようになってきました。都留文科大学の卒業生として、誇りをもって学校現場で活躍して欲しいと思います。

支部総会・懇親会開催

宮崎県支部長 取附義弘

宮崎県支部は、活動の主眼を会員相互の親睦と福利厚生を図ることに置き、さらに母校の発展に寄与することを目的に平成9年10月25日に結成しております。隔年開催としている支部総会及び懇親会を去る8月29日(土)にホテルひまわり荘において開催しました。総会ではご参加くださいました方々に、ご意見や知恵をいただき、議事も式次第によりスムーズに進行することが出来ました。また支部規約第3章6条に従い役員改選が行われ、結成時より会長を務められ本支部の発展にご尽力された荒巻孝行氏が名誉会長に就任され、新支部長以下が次のとおり選出されました。

- 名誉会長 荒 巻 孝 行
- 会 長 取 附 義 弘
- 副 会 長 佐 藤 毅
- 同 末 永 勉
- 事務局 長 波 岡 慎太郎

地区会長

- ①県北部 延岡・日向・西・東白杵 古川 久師(延岡)
- ②西都支部 西都・児湯 山崎 彰生(西都)
- ③宮崎支部 東諸 坂本 一信(宮崎)
- ④都城支部 北諸・三股 中尾 仁志(都城)

総会後の懇親会では、懐かしい青春を過ごした都留の町並みや木造二階建て校舎・運動場造りの奉仕活動等々、現在では考えられない思い出の数々…。町中を駆け下る清流や楽山からの眺望を脳裏に浮かべながらの歓談に花が咲き、大いに盛り上がりました。また、地方創生に向けて「都留市版CCRC構想」などの先進的な施策に取り組む現在の都留市の状況、大学同窓会事務局のご尽力により創立60周年関連事業や大学の今昔を取めた記念VTRを会員の皆様にお知らせすることが出来ましたこともうれしく思っております。

今回の総会にご都合がつかず、欠会を余儀なくされた方々に、再来年(2017年)の次回総会でお会いできることを楽しみにしています。

会員の皆様をはじめ、ご家族の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げましてご報告に代えさせていただきます。



体育会

平成27年度体育会
会長 小林 堯

陽春の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

平成27年度体育会基本方針「躍進」の下、体育会本部並びに各部活が精進して参りました。今年で42回目となる鶴鷹祭では先輩方が築いてきた伝統を受け継ぎ、目標としていた4年連続総合優勝を無事達成することが出来ました。さらに、最終結果が発表された後は勝敗に関わらず両校の選手達からは笑顔が見られ、ノーサイドの精神で親交を深めることが出来ました。

また準硬式野球部の関東甲信越大会優勝をはじめ、多くの部活がリーグ昇格や各大会での上位入賞という成績を収めるなど我々体育会にとって大変喜ばしい一年でもありました。各部が厳しい環境の中でもこのような結果を収めることが出来たのも先輩方の厚いご支援ご協力があったの事と思っております。これからも我々体育会



一同より一層努力して参りますので、今後も都留文科大学体育会を宜しくお願い致します。



文化会

平成27年度文化会
会長 油上千紘

春暖の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

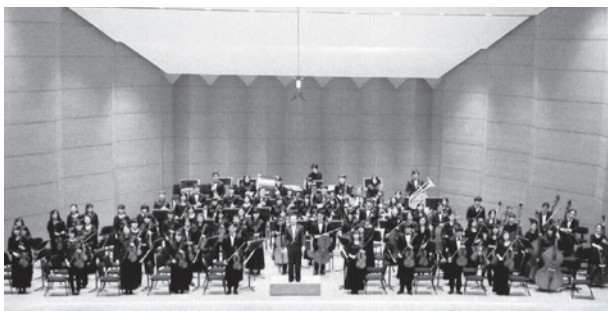
平成27年度におきましては、文化会所属である合唱団が11月21日に行われました「第68回全日本合唱コンクール」におきまして、7年連続の金賞を受賞し、また、全国1位に相当する文部科学大臣賞も受賞し大変優秀な成績を収めることが出来ました。これは、現役員の力の他、OB、OGの先輩方のお力添えの賜物と、深くお礼申し上げます。

また、管弦楽団・吹奏楽部などの音楽団体の定期演奏会や写真部・美術部の展覧会などにも積極的に活動を行っています。



文化会本部におきましては、諸先輩方が築いてくださった伝統を引き継ぎ、各団体のさらなる発展を目標に、積極的に活動を行っていきたく思います。

今後とも、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方には、ご指導とご鞭撻のほどをよろしく申し上げます。



サッカー部・同OB会 「創部50周年記念事業」

平成28年7月30日(土) 於 都留文科大学

12:00「創部50周年記念総会」・13:15「同懇親会」開催予定

連絡先: 記念事業準備事務局担当 川上 富久

(住所) 〒402-0032 山梨県都留市鹿留525-3 (電話) 080-5467-8813

(メールアドレス) t_kawakami@bunrigakuin.com

久しぶりに母校で学びませんか？

発足から、11年目を迎える都留文科大学地域交流研究センターでは、毎年多彩な公開講座や講演会などを開催しております。

【本年度活動一例】

公開講座・講演会	文大名画座 <small>(本学教員がお勧めする映画に関連したことがらの説明とともに映画を楽しみます)</small>	『映画「ツナグ」上映会&辻村深月トークイベント』
	地域教育相談室公開講座	『教育に活かすアドラー心理学』
	地域特別支援教育公開講演会	『知的障害者教育におけるコミュニケーション指導—マカトン法を通して—』
	暮らしと仕事部門研修会	『水が育む潤いある生活を守って』
	県民コミュニティカレッジ	『映画で学ぶ欧州小国の歩み』
	市民公開講座 (子ども公開講座)	『Hello! 英語でワクワク』 ※小学生を対象に本学教員と学生が講師をつとめます 『楽しく走ろう! Run, Ran, ラン!』 『留学生とあそぼう!』 『富士山の中の水の旅』 『ムササビに会いにいこう!』 『読書の楽しさを知る』
地域交流研究フォーラム	『地域交流研究活動—SAT活動をふり返って—』	
その他	フィールド・ノート	地域の自然や文化について、学生が主体となって編集し、冊子の発行を続けています。冊子を定期購読することもできます。
	キャンパスにリスを呼ぶ会	リスとの出会いを楽しみ、自然の出来事を会員にメールで配信しています。教職員・学生だけでなく市民も参加できます。

公開講座などの情報は、随時大学ホームページのイベント情報に掲載しています。

開催日程が決まりましたら、こちらから情報をお送りすることもできます。

公開講座やその他の活動について興味のあるかたは、まずは、地域交流研究センターの情報登録をしてみませんか？

詳しい内容について知りたいかたは、お問合せ先までご連絡ください。

◆お問合せ先

〒402-8555 都留市田原三丁目8番1号 都留文科大学 地域交流研究センター

【電話】0554-43-4341 (内線441) 【e-mail】ckouryu@tsuru.ac.jp

平成26年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

(単位：円)

◆収入の部

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備考
入会金	3,980,000	0	3,980,000	3,980,000	796人×5,000円=3,980,000円
終身会費	7,960,000	0	7,960,000	7,960,000	796人×10,000円=7,960,000円
繰越金	1,380,700	0	1,380,700	1,380,700	平成25年度繰越金
雑入	24,300	0	24,300	51,645	理事会・総会懇親会御祝儀、預金利息
収入合計	13,345,000	0	13,345,000	13,372,345	

(単位：円)

◆支出の部

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	支出済額	【見込額】	備考
事業費	7,510,000	200,000	7,710,000	7,066,983		
会報発行費	2,750,000	0	2,750,000	2,370,445		同窓会報第33号(平成26年度発行)
支部助成金	3,300,000	0	3,400,000	3,200,000		山梨 東京 神奈川 愛知 静岡 600,000円 (@120,000円×5支部) 兵庫 長野 220,000円 (@110,000円×2支部) 北海道 岩手 宮城 茨城 埼玉 千葉 富山 岐阜 石川 福井 大阪 広島 1,200,000円 (@100,000円×12支部) 山形 群馬 三重 島根 岡山 愛媛 徳島 鹿児島 720,000円 (@90,000円×8支部) 鳥取 長崎 熊本 宮崎 320,000円 (@80,000円×4支部) 高知 奈良 140,000円 (@70,000円×2支部)
支部設立準備金	300,000	0	300,000	300,000		京都府 滋賀県
新入学祝費	550,000	0	550,000	488,538		
支部旗作成費	110,000	0	110,000	108,000		京都府 滋賀県
教員採用試験学習会費	100,000	200,000	300,000	300,000		宮城 石川 山梨 富山 愛知 兵庫 千葉 長野 群馬
被災地支援活動費	300,000	0	300,000	300,000		被災地支援金(岩手県、宮城県、広島県)
会議費	1,500,000	16,240	1,516,240	1,516,240		
総会費	0	0	0	0		
理事会費等	1,500,000	16,240	1,516,240	1,516,240		
同窓会本部費	2,010,000	△10,000	2,000,000	1,968,281		
事務費	150,000	0	150,000	123,957		
運営費	1,500,000	0	1,500,000	1,494,324		賃金負担金700,000円含む
慶弔費	240,000	0	240,000	240,000		入学式・卒業式祝い生花、合唱団全国大会金賞ほか
本部役員活動費	120,000	△10,000	110,000	110,000		平成26年度役員報酬
積立金	2,100,000	0	2,100,000	2,100,000		大学創立記念事業基金 2,100,000円
予備費	225,000	△206,240	18,760	10,000		教員採用試験学習会費、理事会費等へ
支出合計	13,345,000	0	13,345,000	12,661,504		

(収入済額) (支出額) (収入・支出差引残高額)

¥13,372,345 - ¥12,661,504 = ¥710,841

◎基金の増減

	基金内訳	
◆平成25年度末積立現在高	41,599,085円	9,602,425円
◆平成26年度中積立金(財政調整基金、大学創立記念事業基金)	2,100,000円	大学創立記念事業基金 34,096,660円

計 43,699,085円 計 43,699,085円

都留文科大学創立 60 周年記念事業について

1 記念コンサートについて

平成27年6月28日(日)、都留市都の杜うぐいすホールにおいて、「由紀さおり・安田祥子ファミリーコンサート」が開催されました。2014年度全日本合唱コンクール金賞及び文部科学大臣賞を受賞した本学合唱団も当日、賛助出演し、会場を大いに盛り上げました。

2 都留文科大学協賛YBSラジオドラマスペシャルについて

平成27年5月30日(土)、YBSラジオにおいて、「生と死の狭間に ～戦場ジャーナリスト山本美香～」と題したドラマが放送されました。山本さんは、本学を卒業し、2012年8月、取材先のシリア・アレッポで銃弾に倒れ、この世を去ったジャーナリストでした。彼女の生き様を通じて、彼女の思い、ジャーナリストとしての使命・役割など、より多くの人々に向け発信しました。

3 新学章(新ロゴマーク)等について

旧学章は、都留の頭文字TとユニバーシティのUを紋様化し富士山を添え、未来への躍動感をデザインしたものでした。

新学章は、このコンセプトと意匠を継承しつつ、視認性を高め、水平基調にリファインするとともに、現代の複合メディアに対応するように、フラットデザイン化しました。

また、これまで愛されてきた隷書体による旧和文ロゴの文字は、宮澤正明先生(元本学助教授、現在山梨大学教授)による揮毫でありましたが、同先生に改めて制作を依頼し、同窓会のロゴとしました。これは、これまでの卒業生や本学の発展にご貢献いただきました教職員、関係者への感謝の気持ちを表したものであります。

支部会報や新たに支部旗を作成する場合に新学章(新ロゴマーク)をご利用ください。利用にあたっては、事前に同窓会事務局までお問い合わせ願います。



4 大学愛唱歌について

本学には、学生歌「花のかげ」があり、入学式等の式典のみならず、同窓会総会などにおいても、様々な機会に歌われています。このような中、次時代へ向け本学への愛好をますます深めるため、創立60周年記念事業行事の一環で第二学生歌とも言うべき愛唱歌を作成しました。愛唱歌のタイトルは、「都留はuniverse」であり、作詞は本学卒業生の海野剛氏、作曲は山下祐加氏によるものであります。

5 大学会館について

今年度予算(寄附採納:大学施設整備支援費予算額400万円)において、大学会館冷暖房設備支援として、大学会館に20台のエアコンを設置しました。同窓生におかれましては、教員が使用しない場合に限って、使用可能であります。理事会や総会など同窓会公式行事に出席する場合などに、ご利用ください。詳細は、事務局までお問い合わせください。

都留文科大学創立60周年記念式典・記念講演・祝賀会

平成27年10月10日（土）



記念式典



講演会 1



講演会 2



愛唱歌披露



祝賀会 1



祝賀会 2



平成27年度理事会出席者

氏名・住所等変更はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAX でお願ひします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須項目及び変更内容を、いずれかの方法のよりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合は、はがきは自己負担をお願いします。

1 ホームページ

(1)本学ホームページより [卒業生の方へ] → [同窓会] → [同窓会氏名・住所等変更届け] に行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。
都留文科大学ホームページ
URL : <http://www.tsuru.ac.jp>

(2)ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のパスワードが必要となります。
パスワード : **tbdh2206**
(半角英数) ※同窓会会員以外による不正使用がないよう、パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2 E-mailにて送信

E-mail:dousokai@tsuru.ac.jp
3 FAX・郵送
〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 都留文科大学同窓会 宛
TEL 0554-43-4341 内線206
FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名(フリガナ) /旧姓 卒業年・学科	現住所/電話番号 勤務先名 勤務先住所/電話番号 勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合がありますらご連絡ください。☆同窓会ブログも平成24年11月から発足しておりますのでご覧ください。
掲載は本学ホームページより [卒業生の方へ] → [同窓会] → [同窓会ブログ] を参照ください。



表紙 (川茂から見た富士と桜)
写真提供 浅川 博氏